老健ぶんすい

～今までの感謝を込めて～
皆様ありがとう

20周年
特別記念号
2021年1月発行
Vol.36

※撮影の為マスクを外していますが、
普段は感染症対策をしっかりと行い
業務に励んでいます。

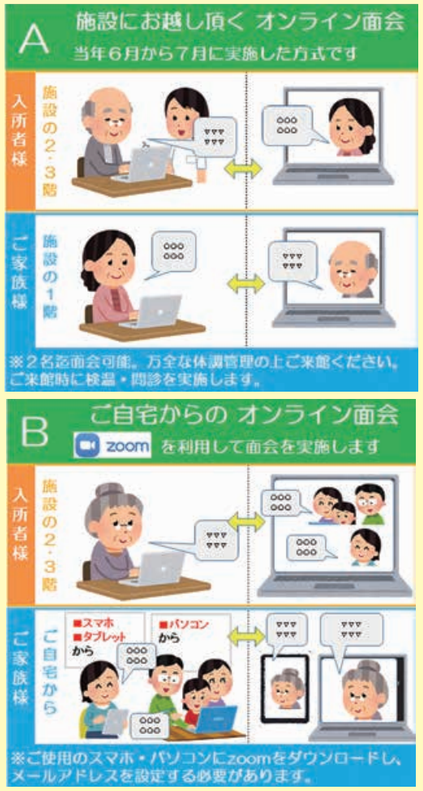
老健ぶんすいは2000年4月開設から20年を迎えました

INFOMATION

入所者様への面会について

2020 年 12 月 22 日現在

- ご不便とご心配をおかけしておりますが、新型コロナウィルス感染対策のため、入所者様への対面での面会は、現在実施しておりません。
- 代替え策として“Zoom”を使用したオンライン(Web)面会を実施中です。
詳しくはホームページをご覧ください。



COVID-19 感染対策について

- 現況に伴い、施設内での“Zoom”を用いたオンライン会議や研修の実施、外部団体主催のオンライン研修にも積極的に参加をしております。このような状況下でも、職員一同日々の研鑽を積んで参ります。
- オゾン発生器、簡易陰圧室装置、サーモグラフィカメラ等、国からの支援金を活用し、ハード面でも拡充を図りました。
- 施設サービスご利用時の諸制限につきましては、今後も厳しく対応せざるを得ない状況です。何卒ご理解とご協力を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

ホームページをリニューアルしました！

- 新ホームページを公開しています。適時新しい情報をお届けいたします。是非ともご覧ください。

老健ぶんすい　検索

編集後記

20周年特別記念号はいかがでしたでしょうか？今までも、そしてこれからも老健ぶんすいは地域に根差した魅力ある施設であり続けたいとも思います。困ったこと、知りたいことなどがありましたら、いつでもお気軽にお問い合わせください。

老健ぶんすい　広報委員会

SUTOKU Health & Welfare Association 崇徳厚生事業団
崇徳厚生事業団
社会福祉法人 長岡福祉協会

経営理念　自分や家族、友人が利用したいと思うサービスの提供

社会福祉法人 長岡福祉協会
介護老人保健施設 ぶんすい
TEL 0256-91-3333
〒959-0113 燕市笈ケ島 104-5
※県立分水高校隣り/2000年(平成12年)開設

Index

P2　巻頭特集～20年分のありがとう～
P3　理事長のあいさつ
　　施設長のあいさつ
P4　老健ぶんすいの年表
P6～P11　各部署 20 年の歩み
P12　INFOMATION

巻頭特集

20年分のありがとう

理事長挨拶

理事長
田宮　崇

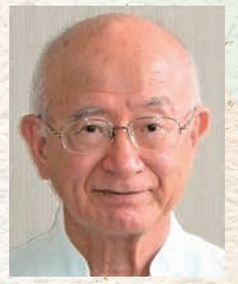
創立20周年を迎えて

創立20周年おめでとうございます。これまで恙なく、無事に今日を迎えることが出来ましたのも、地元を始め、県市等行政のご支援の賜物と深く感謝申し上げます。そして創立以来、既に故人となられた方も居られる職員の皆さんもありがとうございました。

人口減少、高齢社会にあっては、慢性疾患の増加により、急性期から、リハビリテーションや、療養にシフトする、病床の再編成が進行中であり、介護老人保健施設（老健）の役割も増々重要になっています。高齢者施設は、内部で包含する医療、看護等ケアの度合いに応じて、介護老人福祉施設（特養）や、老健等に加えて、介護医療院が近年加わり、それぞれ特徴づけられていますが、人口動態、社会保障費の逼迫等から、今後もいろいろ制度変更が行われるものと思います。如何なる場合でも、目の前に、サービスを必要とする方々がおられる限り、我々役職員が全力を尽くす必要があることは、言うまでもありません。

新潟県の中央部、豊かな平野の中にあって、老健「ぶんすい」は今後も使命をまっとうすべく、地域包括ケアの中で、セーフティーネットの一環として、努力してまいりますので、地元を始め、多くの方々のご支援、ご指導をよろしくお願いいたします。

施設長挨拶



施設長
田村　康二

私が施設長に就任し早６年になります。就任当時は長期療養型の風土が色濃く残り「特養に似た老健ぶんすい」という印象でした。医療のレベルを上げていくことは急務と考え、併せて入所者の食事・居室環境の整備をまずは図りました。また、職員の働きやすい職場風土の醸成も重要な要素であり、年休をしっかり取り、超過勤務のないよう業務の見直しを徹底しました。職場環境の整備が進むにつれ、退職者は減少し、６年前には従業員の欠員を補充するのに大変苦労しましたが、昨今は求人後の採用もスムーズになりました。

入所棟を預かる療養部は医療の質を向上させ、看取りの方も受け入れられるようになりました。そして老健本来の役割である「自宅への復帰」も次第に行われるようになりました。以上の様々な取り組みにより、老健本来の機能が発揮できるようになりました。当施設は長らく厳しい経営状態が続きましたが、施設が地域に開かれてくるにつれて、安定化に進み、本来の老健の在り方が成し遂げられるようになっています。今後は医療の質をより高め、在宅復帰につながるリハビリの質も高める必要があると思いますので、これからの在り方をさらに変えて当施設の拡充を成し遂げたいと思っています。

ぶんすい20年のあゆみ

2000（平成12年度）

- ●4月1日　介護保険法施行／入社式／訪問看護ステーション開設
- ●4月12日　介護老人保険施設、短期入所療養介護、通所リハビリテーション、居宅介護支援事業所開設

2001（平成13年度）

- ●7月　広報誌『わけみず』創刊

2002（平成14年度）

- ●6月　ヘルパーステーション開設
- ●10月　窪沢施設長　田宮病院へ転任／小池施設長　老健ぶんすいへ着任

2003（平成15年度）

- ●4月　介護保険法改正／小池施設長　老健桃李園へ転任／小柳施設長　老健ぶんすいへ着任
- ●12月　療養棟3階を増改築／療養棟3階を認知専門棟へ変更許可

2004（平成16年度）

- ●1月　ノロウイルス感染症集団発生
- ●7月13日　新潟豪雨
- ●10月23日　中越大震災

2005（平成17年度）

- ●10月　介護保険法改正に伴い、居住費、食費が保険給付対象外となる。
- ●12月　ISO9001認証取得

2006（平成18年度）

- ●4月　介護保険法改正

2007（平成19年度）

- ●6月　通所リハビリテーションの定員変更　20名→40名
- ●7月6日　中越沖地震

2008（平成20年度）

- ●4月　介護保険事業者指定（許可）の更新制度導入により更新申請
- ●11月　中庭部分を居宅介護支援事業所、訪問看護ステーション、ヘルパーステーションの事務所として改築／通所リハビリテーション拡張
- ●12月　ISO9001認証取得更新

2009（平成21年度）

- ●4月　介護保険法改正

2010（平成22年度）

- ●4月　創立10周年
- ●7月　創立10周年記念式典挙行／創立10周年記念誌発行

2011（平成23年度）

- ●3月　東日本大震災発生・職員ボランティア派遣

2012（平成24年度）

- ●4月　介護保険法改正 介護職員による喀痰吸引・経管栄養などの医療行為が一部解禁

2013（平成25年度）

- ●1月　AEDの設置・デマンド監視装置の導入
- ●6月　宇野施設長着任

2014（平成26年度）

- ●1月　現任 田村施設長着任
- ●12月　非常階段をらせん式滑り台型へ改修

2015（平成27年度）

- ●12月　ナースコールシステムの全面改修

2016（平成28年度）

- ●4月　熊本地震に当施設からボランティア派遣
- ●7月　通所リハビリテーション定員変更　40名→30名へ
- ●9月　特殊浴槽・チェアー浴槽の新規導入

2017（平成29年度）

- ●3月　働き方改革法制定。労務管理を強化
- ●7月　長岡福祉協会50周年記念誌発刊

2018（平成30年度）

- ●10月　2階の一般浴槽の大改修

2019（令和元年度）

- ●10月　台風十九号襲来　大河津分水路観測史上最高水位記録（施設内2F利用者様が3Fへ避難）

2020（令和2年度）

- ●3月　新型コロナウイルスによる面会制限・オンライン面会開始
- ●6月　通所リハビリテーション定員変更　30名→35名へ
- ●9月　サーモグラフィカメラ等感染対策装備設置

2000年開設当初の集合写真

2014年らせん式すべり台へ改修

10周年 記念誌

2016、2018年入浴場・設備改修

2019年台風で増水した大河津分水

2020年新型コロナ対策実施中

世界のできごと

- ・新潟県中越沖地震が発生
- ・石見銀山遺跡、世界遺産に登録
- ・第1回東京マラソンが開催
- ・悠仁さまご誕生
- ・WBC、王ジャパン初代王者に
- ・トリノオリンピックで荒川静香選手が金メダル
- ・ディープインパクト、無敗三冠馬に
- ・JR福知山線脱線事故が発生
- ・「愛・地球博」が愛知県で開幕
- ・スマトラ島沖地震が発生
- ・20年ぶりに新紙幣が発行
- ・アテネ五輪で北島康介選手らが活躍
- ・SARSが大流行
- ・六本木ヒルズがグランドオープン
- ・イラク戦争開戦
- ・北朝鮮拉致被害者が日本に帰国
- ・FIFAワールドカップ日韓大会が開催
- ・「ユーロ」の流通が開始
- ・愛子さまご誕生
- ・アメリカ同時多発テロが発生
- ・大阪に「USJ」が開園
- ・シドニー五輪で高橋尚子選手らが活躍
- ・九州・沖縄サミットが開催
- ・世界各地で「ミレニアム」祝う

- ・アップル「iPhone 3G」発売
- ・リーマン・ショック
- ・北海道洞爺湖サミットが開催
- ・ハドソン川の奇跡
- ・マイケル・ジャクソン氏が死去
- ・バラク・オバマ氏が米大統領就任
- ・チリ鉱山で落盤事故が発生
- ・「はやぶさ」が地球に帰還
- ・日本航空が事実上の倒産
- ・FIFA女子W杯でなでしこジャパンが優勝
- ・英ウィリアム王子が結婚
- ・東日本大震災
- ・富士山が世界文化遺産に登録
- ・長嶋茂雄氏と松井秀喜氏に国民栄誉賞
- ・ボストンマラソンで爆弾テロ
- ・山中伸弥氏がノーベル生理学・医学賞受賞
- ・東京駅赤レンガ駅舎が開業
- ・東京スカイツリーが開業
- ・御嶽山が噴火
- ・韓国「セウォル号」沈没事故
- ・ソチ五輪フィギュアで羽生結弦が金メダル
- ・ラグビーW杯で日本が3勝の歴史的快挙
- ・マイナンバー制度が開始
- ・パリ同時多発テロ事件が発生
- ・オバマ米大統領が広島を初訪問
- ・熊本地震が発生
- ・「ポケモンGO」世界各国で一大ブームに
- ・トランプ米大統領が就任
- ・パンダ「シャンシャン」が公開
- ・史上初の米朝首脳会談が開催
- ・西日本で記録的豪雨
- ・大坂なおみ選手がテニス全米オープンで初優勝
- ・新元号「令和」を発表
- ・ラグビーワールドカップ日本大会が開催
- ・徳仁天皇・即位の礼

20年のあゆみ　療養部（入所・短期入所）

この部門の特徴

1. 利用者様に、思いやりの心を持って接します。
2. 利用者様を尊重し、その人に合った支援、援助をします。
3. 常に利用者様と、同じ目線で向き合い、感謝の気持ちで接します。
4. 職員は、常に学ぶ姿勢を持ち続け、サービスの質を高め、支援、援助します。

これからの飛躍に向けて

２０周年を迎え、利用者様により良いサービスを提供できるよう日頃の業務内容を見直し利用者様が家庭復帰と自立した生活が可能となるように、また利用者様とそのご家族の要望を満たせるよう努めていきたいと思っております。

私たちは、高齢者の方を尊敬し、人生の先輩として専門職である自己の役割に誇りをもち日々の業務向上に努めていきたいと思っています。

ここが変わった20年！！
～ちっちゃいことから大きなことまで～

業務改善により職員の時間に余裕が持てるようになった
⇒利用者様と会話する機会の増加
　笑顔が多くみられるように

嗜好品の持ち込みによる満足度向上
⇒ご家族様に利用者様の好きなものを持参していただき提供できるように

担当制の変更
⇒部屋での担当割から個人担当へ
　入所から退所まで同じ職員が密に関われるようになった

職員紹介

2000年入社
介護福祉士
大橋貴之

ぶんすい開設時に入社し２０年が経ちました。あっという間ではなく、地道に積み上げ現在に至ります。年齢とともに心、身体の衰えを感じますが、何とか頑張っています。今後は体を第一に考え、職員と利用者の方、お互いが尊敬し合える環境で仕事が出来ればと考えています。

2019年入社
亀山一平

大学卒業後当施設に入社しました。１年半の介護業務を通して実際に行われている支援について学ぶことができました。色々な工夫がされており利用者様がどうしたら快適に生活できるのかと一番に考えているのだなと思いました。日々の業務の中、思いやりをもって頑張っていきたいです。

20年のあゆみ　通所リハビリテーション

この部門の特徴

ご自宅への送迎を行い、リハビリを中心とした各種サービスを提供します。入浴や食事といったサービスの他、余暇活動や行事など皆様で盛り上げ楽しめる環境づくりをしています。ちょっとお話がしたい、リハビリだけでも受けたいといった一人一人のご要望に沿って参りますので、お気軽にご相談ください。

これからの飛躍に向けて

利用者様と時代のニーズに合わせたサービスを

一言に高齢者の方と言っても、時代と共にその暮らしぶりは大きく異なっています。飲み物一つにしても水とお茶の生活様式だったものが紅茶やコーヒー、ビールと言った各種嗜好品まで幅広く好まれる時代――そうしたものを当たり前に口にしてきた高齢者――になってきました。これから団塊の世代が後期高齢者に突入していく時代背景もあり、通所リハビリにも世代に即したサービスが求められています。

最近導入された飲水サーバー
利用者様も好きな飲み物が飲めるようになりました。

求められるデイケアとしての在り方

介護保険制度が始まってからおよそ20年。今や病院で過ごすことよりも、退院し生涯在宅生活を続けるという考え方が浸透し、デイケアという言葉も身近になりました。当施設も開設時に比べて若い利用者様も増え、自宅での生活を続けたい、身体が動かせるようになりたいとする意識の変化が如実になってきました。今やデイケア人気は高まり満員となる日も多く、目的を持って活用する人にとって充実した内容を提供できることが必須になっていると思われます。

リハビリ目的で 14：30 から来所されるご利用者様【左写真】

お一人お一人の時間や目的に沿った柔軟なサービスの提供も始まっています。

職員紹介

2000年入社
介護福祉士
通所リハ所長
平澤香織

気付けば20年。

振り返ると20年前と今では年齢層、疾患、ニーズなど大きく変化しています。

人生100年時代、この地域でその人らしくいつまでも元気に過ごすことができるためには自分に何ができるのかを考え、日々精進して参りたいと思います。

2019年入社
伊藤花菜子

今までの環境ががらりと変わり、何も分からず毎日ドキドキしていた私を一から指導してくださった先輩方、また毎日元気に通って下さるご利用者様のお陰で毎日楽しく働かせて頂いています。今後も多くのことを吸収し勉強を重ね、いつまでもご利用者様が元気にイキイキと通って頂けるよう努めていきたいと思います。

20年のあゆみ　リハビリ科

この部門の特徴

昨年新たにリハビリテーション科初の言語聴覚士を迎え、理学療法士３名、作業療法士３名、言語聴覚士１名体制となりました。リハビリはご本人、ご家族、各部署のスタッフ、地域の事業所との橋渡しの役も担います。その人らしく住み慣れた地域で豊かに暮らしていけるようサービス提供を行っています。

これからの飛躍に向けて

介護保険制度が施行され 20 年、同じく老健ぶんすいも 20 周年の時を経ました。
これまで多くのご利用者様と出会い、その方が望む生活が支援出来るよう開設当初から取り組んできました。20 年という経過の中で、もちろん高齢者の方を取り巻く環境も時代と共に変わり、私たちが携わる入所、通所、訪問リハビリにおいても、求められるサービスのニーズや質が多様化してきていると感じます。

老健施設は在宅復帰施設です。しかし、実際にはご本人様やご家族様を取り巻く環境因子や人的因子により、自宅へ戻ることが出来ず入所が長期化するケースが多いのが現状です。これは通所リハビリにおいても同様で、要介護状態が悪化しないようリハビリで身体機能の向上や維持が図れたとしても、その先にある社会的な活動や参加に結び付けることが難しく、長期に利用されているケースが殆どです。

このような中で、昨今では、たとえ要介護状態になっても生きがいや役割をもち、豊かに生活出来る地域環境の実現、住民主体の通いの場や地域交流の中で互助の作用を活用し、地域の健康増進を図る、といった自立支援の流れとなってきています。

私たち自身も、当施設がある分水地域あるいは隣接する地域に目を向け、施設の中だけではなく、地域や住民の皆様との繋がりを意識し、今まで以上に地域に密着したリハビリテーション科を目指して行く必要があると感じます。実際に、昨年度から少しずつですが、在宅復帰を叶えられている方も増えてきました。リハビリスタッフは様々な職種や関係者の方とのつなぎ役を担える職種でもあります。私たちが地域交流の場へ出向くことで、入所や通所、訪問利用の方が安心して参加できる場所や役割づくりの機会が増えていくよう尽力していければと思います。

職員紹介

2002年入社
作業療法士 主任
青柳優子

開設３年目より勤務させて頂いております。利用者様の中には様々な理由でお身体が動かしづらい方も多くおられます。その中でも、お一人お一人其々の今までの生活や人生の背景を考え尊重しながら携わらせて頂き、これからの生活が少しでも張り合いのあるものに出来るように頑張って参りたいと思っております。

2020年入社
理学療法士
川本彩子

新潟地域の回復期病院と老健施設を経験し、今後は地域に根差して仕事がしたいと思い、4月よりお世話になっています。

スタッフの方や利用者様に温かく迎えて頂き、毎日楽しく働いています。

利用者様の生活や気持ちに寄り添ったリハビリが行えるよう日々努めて行きたいと思っています。

20年のあゆみ　訪問看護ステーション

この部門の特徴

ご病気や障がいをお持ちの方が、住み慣れた環境でご自分らしく生活していけるように、かかりつけ医との連携の下、看護師がお住まいの場へ訪問し、療養生活全般の支援サービスをご提供いたします。
訪問看護、介護、リハビリが連携し、ご利用者・ご家族と向き合いながらサービスを提供します。

これからの飛躍に向けて

所長 看護師　田中　智子　2001年入社

訪問看護に配属されて気が付けば勤続19年となりました。この間に、義母が脳出血で倒れ、祖母がアルツハイマー型認知症を患い、共に当施設を利用しました。一家族としての経験をもとに、本人の意思決定を支援し、かかりつけ医師をはじめとし、短期入所・通所リハビリ・訪問介護・居宅介護支援事業所などの担当者と密接な連携に努め、在宅での療養生活を訪問看護の立場から微力ながらもサポート出来るように努めたいと思います。

看護師　桑原　奈保子　2020年入社

新卒から十数年、急性期病院で勤務してきました。急な病気の発症で、「今まで通り」の生活が送れなくなった方にたくさん関わってきました。その中で、地域のサポートや在宅看護の役割を知り興味を持ちました。何より、ひとと話すことが大好きな私!訪問看護師になり「ちょっと待って」「今 手が離せなくて…」と言う事がなくなり、ゆっくりとお話を聞くことができています。今後も自ら学び、より良い看護を提供できるよう努力していきたいです。

職員紹介

2016年入社
看護師
結城里江子

訪問看護師となり4年以上が経過。ご利用者様・ご家族様の想いに寄り添い、その人らしく過ごすために何が出来るかを考える毎日です。信頼される看護師となるべく努力していきたいと思います。

2015年入社
看護師
白倉則子

入所棟から移動し1年。疾患や年齢層が幅広く勉強の毎日ですが、家族愛、夫婦愛を垣間見ることもあり元気をいただいています。ご利用者様の住み慣れた家で療養したいという思いを大切にし尽力していきます。

20年のあゆみ ヘルパーステーション

この部門の特徴

ご利用者様がご自宅で自立した日常生活が出来るよう、介護福祉士の資格を持った訪問介護員が利用者様の自宅を直接訪問して、入浴・排泄・食事等の介助「身体介護」、調理・洗濯・掃除等の家事といった「生活援助」を行うサービスです。要支援・要介護の高齢者が自立した生活ができるようにサポートします。

これからの飛躍に向けて

老健ぶんすいが 20 周年を迎えました。当ヘルパーステーションは、18 年経ちました。開所当時より少人数ですが、施設周辺の地域の方々を微力ながらもサポートさせていただいております。平成 27 年度の介護保険法改正より、地域包括支援センターによる介護予防ケアマネジメントに基づく、総合事業（介護予防･日常生活支援総合事業）にも対応しています。同施設内のサービスと情報共有・連携を強化し、地域の実情に応じたきめ細やかなサービスの提供を目指しています。

ここが変わった20年！！
～ちっちゃいことから大きなことまで～

2018年4月より総合事業を開始
⇒地域密着化し、強く根付いてきた

調理サービスが減少した
⇒宅配弁当サービスの利用・普及

通院介助がなくなった
⇒NPO法人や保険外などで対応

入浴介助サービスが減少した
⇒デイケアや訪問入浴の利用増加

オムツ交換の回数が減った
⇒以前に比べてオムツの性能向上

職員紹介

2007年入社
介護福祉士
サービス提供責任者
長谷川幸代

ご利用者様の自宅に訪問し、入浴・排泄・食事介助等の身体介護、調理・洗濯・掃除・買物等の生活援助、介護に関する相談・助言等のサービスを提供しております。「来てくれてありがとう」の言葉を励みに、より良いサービスを心掛けて行きたいと思います。

2020年入社
介護福祉士
渡辺尚子

訪問介護サービスに勤めて間もなく半年が経ちましたが、まだまだ学ぶことは沢山有ります。

日々誠実に仕事に向き合い、ご利用者様が安全に安心してご自宅で過ごす事が出来るように、より良いサービスを提供して行きたいと思います。

20年のあゆみ 相談・居宅・栄養・事務

この部門の特徴

当施設の受付も兼ねます１F事務室には、居宅介護支援事業所・支援相談課・栄養課・総務課のスタッフが常駐しています。
施設の窓口として、お客様が気持ちよくご利用いただけるよう、親切丁寧な対応を心掛けています。
何かお気づきの点やお聞きになりたいことなどがございましたら、いつでもお声かけください。

これからの飛躍に向けて

支援相談課

支援相談員（ソーシャルワーカー）２人体制で勤務しています。施設入所・短期入所についての相談・申し込み・受け入れ対応をさせていただいております。

また、在宅復帰後の生活についても、介護・医療・リハビリスタッフ・居宅ケアマネージャー等と連携し、ご利用者様・ご家族様のニーズに合ったケアを第一に考え、相談対応させていただきます。

居宅介護支援事業所

介護支援専門員（ケアマネージャー）２人体制で勤務しています。要介護等認定を受けているご利用者様が住み慣れたご自宅や地域での生活を継続できるよう、ご本人様・ご家族様と相談しながら介護保険サービスを調整します。

介護に関してご不明なことがあれば、お気軽にご相談ください。

栄養課

栄養課は管理栄養士１名の部門です。外部委託の厨房職員と共に、介護医療スタッフと連携を密にし、これからも、食を通して季節を感じていただき、美味しく安全で食べやすい食事の提供を目指します。

総務課

総務では、施設会計・医事会計・労務管理・施設管理や夜警対応など施設庶務全般を行っています。

来訪されたお客様やお電話での問い合わせには、笑顔で丁寧な対応を心がけ、ご利用者様が気持ちよく施設を利用していただけるよう、日々努めてまいります。

職員紹介

2000年入社
栄養課
管理栄養士 主任
水澤美保

20年の間に食を取り巻く環境もめまぐるしく変化しました。ですが、時代は変わっても安全でおいしい食事は変わらないニーズです。食を通じたQOL（生活の質）の向上を目指して、ご利用者様に笑顔で楽しんでいただけるような食事サービスに向けて、今後も取り組んでまいります。

2017年入社
居宅介護支援事業所
ケアマネージャー
島加代子

信濃川と自然に囲まれた素晴らしい環境の中、ご利用者様から笑顔をいただきながら勤務し4年が経とうとしています。ご相談以外でも気軽に声を掛けて頂けるケアマネジャーとなれるよう初心を忘れず笑顔での対応を心掛けていきたいと思います。今後ともよろしくお願いいたします。